日 時 平成25年11月8日(金) 午後1時半~

場 所 岩手県環境保健研究センター 大会議室

平成 25 年 11 月 8 日開催

【事務局】 ただいまから、平成25年度カモシカ保護管理検討委員会を開催いたします。 それでは、お手元に配付した次第に従いまして進行させていただきます。 次に、今回の委員会は委員委嘱後、はじめての開催となりますので、委員の 皆様をご紹介します。(名簿にしたがい、順次紹介) 続きまして委員長の選任ですが、委員会設置要綱第3の第3項の規定により 委員の互選となっております。委員の皆様の立候補、ご推薦ございますか。

【 フ ロ ア 】 (青井委員を推薦する声)

【 事 務 局 】 青井委員の推薦がありましたので、青井委員にお願いしてよろしいでしょうか。

【 フ ロ ア 】 (異議なしの声)

【 事 務 局 】 それでは、青井委員に委員長をお願いします。

【青井委員長】 議事に入ります前に、委員会設置要綱第3第5項の規定により、委員長が職務代理者を指名することとなっておりますので、指名いたします。 森林総合研究所東北支所の堀野委員にお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

【 堀 野 委 員 】 (引き受ける旨の発言あり)

【青井委員長】 それでは、議事に入ります。議題(1)「平成24年度のカモシカ保護管理対策の実施状況について」 事務局から説明願います。

【 事 務 局 】 (資料により説明)

(住 田 町) (町の担当者から資料2の8,10ページについて補足説明)

8ページの被害状況について、被害金額及び被害区域面積についてはともに減少傾向にある。目撃情報については多数寄せられているが、防護網の設置・管理等の効果が出てきており、被害金額は減ってきている。この調査については、各農家から聞き取り調査を実施している。なかなかカモシカかシカか区別が難しいが、カモシカの場合は比較的日中出没しているケースが多く、そういった部分から(目撃していることから)農家が判断している。防護網等については、平成元年度あたりに設置したものが多く老朽化が進んでいることから、来年度26年度に2,000m程度設置したいと考えている。

防護柵等の設置状況をみると、平成25年度は、被害が減少したことにより遊休農地を新たに耕作したいという方もおり、新たに設置が必要な距離が増えたため、相対的に設置率が低くなっている状況にある。

生息調査についても、11月3日に行っている。昨年度捕獲を実施した地域で昨年度の6月にも調査を行っているが、捕獲後、同じ地域で今年度11月にも調査を行った。結果、1頭の目撃があった。農家の方々の話を聞くとかなり目撃情報は多いが、この時期キノコ採りに山に多数入っており、調査に入った時も結構な人がいたため、足跡等はかなり見つかったものの、目撃は1頭のみであった。捕獲は4頭実施したが、新たな個体が入ってきており、カモシカにとっては住みやすい地域なのかと思う。目撃時の写真も掲載しているが、

平成 25 年 11 月 8 日開催

山の中を探していたが見つかったのは、写真にあるとおり耕作地のすぐそばであり、日常的にこういった場所に出没していることが分かった。

【 事 務 局 】 (引き続き資料に沿って説明)

【青井委員長】 それではただいまの説明について、質問等ありますでしょうか。

【 堀 野 委 員 】 (大船渡市で被害の大きかった)イチゴですが、これまでも同じように作付していたにもかかわらず今回被害があったのか。非常に、数字的に目立つが。

【 事 務 局 】 その点について経緯を詳細に確認していなかった。聞いているのは、シカもいる地域だが、カモシカの方がより多く目撃されており、カモシカによる被害と判断したと聞いている。

【青井委員長】 囲っていたとか、そういう防除対策はしていなかったのですか?

【事務局】 露地栽培のイチゴで、そういう対策はしていなかったと聞いている。

【青井委員長】 5ページの被害対策状況をみると、大船渡市について、平成24年度は防護網の設置による対策を実施しているが、今年度25年度においては、カモシカ被害が増えているにも関わらず、被害対策の計画があがってきていない。

【 事 務 局 】 何故、補助事業に手を挙げなかったのか直接聞いてはいないが、被害額が増えているので、その対策として捕獲するのであれば、市町村で実施計画を策定する必要があることを伝えている。ただし、市の担当者とすれば、まずシカ対策に重点をおきたいとの話を聞いている。

【青井委員長】 捕獲計画も市からは出ていないし、防護網等を張っていればよかったのかと 思う。被害が増えているにもかかわらず、防除対策を何もしていないという のはいかがかと思うので、その点は、大船渡市に伝えて欲しい。

【藤沢委員】 これだけ大船渡市で被害が増えたというのは、何か理由があるのでしょうか?

【 事 務 局 】 市に確認した限りでは、ある特定の農家における野菜、単価の高いイチゴが 被害にあったと聞いている。そのため、被害額自体が大きくなったと聞いて いる。

【 堀 野 委 員 】 面積でいうとどれぐらいですか?グラフの野菜の部分がほぼイチゴとすると 約 500 アールですよね。

【青井委員長】 数字が資料にのっていますか?

【 事 務 局 】 資料には掲載していない(グラフのみである)。

【千葉(和)委員】 グラフで見ると野菜 5 ヘクタールですよね。この面積で、この金額というのは…。15 ヘクタールなり 20 ヘクタールぐらいあってもよさそうですが。イチゴで 5 ヘクタールというのはない気がします。

【青井委員長】 他の野菜も含めての数字ではないのですか?

【 事 務 局 】 ほぼイチゴの数字と聞いている。手元に被害面積等の詳細な資料が手元にあるので、必要があれば、後でお見せできる。

【青井委員長】 よろしいですか。それ以外に何かありますか。

平成 25 年 11 月 8 日開催

【千葉(和)委員】 住田町の防護網等というのは全部電気柵ですか?

(住田町)全てというわけではなく、12ページ目の地図で、水色の部分は水田だが、そこは電気柵で、それ以外の農地は防護網となっている。半分より少し多い位が電気牧柵である。

【 菅 野 委 員 】 13ページの捕獲個体の一覧表で、年度別の比較の欄で、年度を追って平均体 重があがってきているが、どういう理由が考えられるか?

【 堀 野 委 員 】 体重だけが増えている、頭胴長等は変わらない。

【青井委員長】 体重は実測ですか?

【 事 務 局 】 24年度捕獲した個体のうち、3月30日の捕獲個体については推定だが、それ 以前の数値は、20.5Kg等半端な数字なので実測と思う。

(住田町) 24年度捕獲個体のうち、3月31日に捕獲した2頭は実測です。

【青井委員長】 かつては、捕獲時に岩手大学の職員も立会し、採材等行っており、その際は きちんと測定していたので、その時代のはきちんとした数字だと思う。

【青井委員長】 平成24年度の捕獲個体の4頭のうち2頭は推定だとすると、その辺が影響しているかもしれないですね。60kgというのは、過去最大級ですからね。

【 菅 野 委 員 】 60Kg というのは妊娠個体なので、その辺の影響もあるかもしれない。

【青井委員長】 胃内容分析は私が行いましたが、個体によってかなまちまちであった。カモシカはなわばりがあるようなので、その辺の影響もあるかもしれない。捕獲時期が春先であり、農作物はまだの時期であり、胃内容から、被害を実際に起こしているかどうかについての判断は難しい。

【 堀 野 委 員 】 資料中に「個体数調整」という言葉が使われているが、カモシカにはふさわしくない表現である。前年度の委員会でも指摘し、第 3 次カモシカ保護管理計画の表記も修正してもらったが、「加害個体の捕獲」に直すべきである。総量規制が必要なニホンシカと異なり、カモシカは加害個体を捕獲し被害を減少させるのであるから、表現は修正すべきである。

【 事 務 局 】 第 3 次計画の際に指摘いただき、文章は修正したところ。今回の資料についても表現を修正すべきでした。

【青井委員長】 通常ですと、市町村から捕獲計画の提出がり、その内容について審査するのに時間をとられますが、今年度は出てきていませんので、協議事項はありません。他にないようであれば、24年度のカモシカ保護管理の実施状況については原案通りで認めるということでよろしいですね。それでは、議事の2、ということで事務局から何かありますか。

【 事 務 局 】 (資料4に基づき説明)

【青井委員長】 今年は市町村からの捕獲計画もあがってきておらず、カモシカの問題もそれ ほどではなくなってきたのかなとも思われますが、いやいや実際はそうでは ないのだ、ということなのであれば、引き続き特定計画の継続は必要と思わ れます。保護地域の生息調査によれば、生息密度が減少していることも踏ま え、今後岩手のカモシカ対策の方向性について、どんなことでもよいですの

平成 25 年 11 月 8 日開催

で、論点を投げかけていただきたい。

【藤沢委員】 14ページの資料をみると、他県でも決して増えていないようです。私どもも、山に入っても決してカモシカは増えていないように感じている。シカそのものは増えている。カモシカは横ばいかと。減少しているかどうかは不明である。猟友会の菅野さんはどうでしょうか?

【 菅 野 委 員 】 同じ考えある。獲物の対象として考えたことがないので生態については未知 の部分がある。シカは群れで行動し、カモシカは単独で行動するので見えな いのかなとも思うが、少なくとも増えてはいないと思う。

【千葉(和)委員】 農林水産関係からの立場から言えば、先ほどカモシカの被害が3千万円と、 従前に比べて多くなっている。個体数管理は、シカであろうがカモシカであ ろうが、していかなければならないと感じている。シカについては、侵入防 止柵を設置したがゆえに、他の地域に分散してしまったのではないかという 思いもある。そのため他の地域に広がる前に何とかしなければ解決できない という思いもある。よって、カモシカについても引き続き個体数管理につい てはやっていかなければいけないと考えている。

【赤澤委員】 一つ確認ですが、資料4の生息動向の数字は、いつの時点の結果なのか教え て頂きたい。

【事務局】調査当初(昭和60年前後)の数字と、各保護地域における最新の数字である。 保護地域については、毎年調査しているが、3年毎に重点的に特別調査をしている。その最近の地奥別調査の結果である。調査年度は、保護地域によって若干前後している。

【赤澤委員】 資料4の愛知県の欄に「平均1頭/Km²の低い水準」と記載があるが、岩手県の保護地域もそうすると、生息密度は低いという理解でよいのか。

【 事 務 局 】 必ずしもそうといえないと思う。たとえば長野県での生息密度調査では、1 頭/Km²を下回っているにも関わらず、毎年数百頭規模の捕獲を行っている。 しかし、その結果、生息密度が減少しているという話は聞かない。 「生息密度は1頭/Km²の低い水準」という表現は、報告書の記載からそのまま抜粋したもの。

【 赤 澤 委 員 】 適正頭数や密度についての目安が示されていないということか。

【 事 務 局 】 そうである。

【青井委員長】 文化庁ではかなりの予算をかけ、全国のカモシカ保護地域 15 カ所の生息調査を実施している。先日、保護地域の指導員の会議があり参加してきた。その中で、近年の保護地域での生息動向についての報告もあった。その報告でも、ほとんどのところでやはり生息密度は低下しているとの報告であった。ただ、保護地域は基本的にみんな山の中で、あまり人間の活動に影響のない場所を指定している。ここの密度が、そのまま農山間地域の密度を反映しているかというと、そうではない。逆に、山奥にはいないけど、里の方にはいる可能性もある。その一方で、先ほどから指摘があるとおり、シカが増えて

平成 25 年 11 月 8 日開催

追いやられているかもしれないが、農地にはまだ、そこそこいて、被害が起きている可能性もあるだろうと思っている。よって、この保護地域での調査結果が、そのまま農村地域にあてはまらないと考えている。全国的に減っているというのは近年の特徴ではあると思う。その他いかがでしょうか?今年度から、第3次計画が始まったばかりですが、若干密度が減ってきているという一方で、依然被害が起きるということもあるようなので、緊急に結論が必要なわけではないが、次期計画も策定するかどうかの議論も含めて、山形県のように特定計画をやめた県もありますので、次期計画に向け議論していく必要はあるだろうと思います。今後の生息動向を見極めた上で、次期計画に向けた話し合いが必要と思います。

その他何かありますか。

【 事 務 局 】 今年度、市町村から捕獲の実施計画があがってきていないが、来年度も実施 計画が提出されない場合は、協議事項がないためカモシカ保護管理検討委員 会が開催されない場合があります。御承知ください。

【青井委員長】 それでは、来年度の市町村からの実施計画等の状況を見て進めていきたいと 思います。他になければ、これで、検討委員会を終了したいと思います。

【 事 務 局 】 (閉会)